



平成23年度マイミュージアムギャラリー 第1回展示

# アジアの旅のひろいもの ～中国の水滴・俑・面・陶器～

平成23年 4・3 日 ～ 5・8 日



## ごあいさつ

中国をはじめとする異国でのスケッチ旅行のつれづれに、その国の街はすれや村里の青空市場で、砂埃にまみれた店先の中からつまみ上げたガラクタの数々。いずれも旅行中の持ち運びを考えて小さくて軽いものばかり。はじめは、面白半分の骨董集めでしたが、気づくと「水滴」は百余個、俑や面は十数個に増えて、いずれもその存在感を發揮しています。

なかでも掌中の珠と呼ぶべき「水滴」は中国はじめアジアの筆墨圈、韓国、台湾、日本にまたがって、古代から現代に至るまで筆墨世界の必需品として使用してきました。展示品の中には中国で価値があるといわれる「水滴」もあって、文字通りの玉石混交のありさまです。その他、面、俑、陶器など異国の庶民の美意識を語るガラクタが個々の個性を示して、ご鑑賞に堪え得るものと確信する次第です。どうぞ、ごゆっくりとご覧ください。

出展者 日本画家 田中 照子 (岐阜市)

中国の水滴

書画などを描くとき、硯に水を入れるための書の道具です。アジアの筆墨圏である中国、韓国、日本にまたがって古代から現代にいたるまで、筆墨世界の必需品として使用されてきました。



面

ネパールや中国で集めた面です。亀の甲羅を材料にした面もあります。

俑

俑とは、死者と共に埋葬された人形で、中国の殷代から明代にかけて作られました。唐代には三彩の俑が盛んに作られ、装飾の華麗さで群をぬいているといわれます。



【ネパールの魔よけ面】



【唐三彩立女俑（唐代8世紀）】



【唐加彩少女俑（唐代8世紀）】

陶器



【青釉黒彩銀化壺（パルミラ出土13世紀）】



【碧釉銀草花生（加藤卓男）】



【三彩鶏冠壺（加藤卓男）】

マイミュージアムギャラリー **次回の予告**

平成23年度 第2回展示 5/21(土)~6/26(日)

**思いを繋ぐ百徳きもの展**

出展者：百徳キルトの会 代表 呉山 裕子（金沢市）  
服部 崇子（関市）



江戸時代から金沢に伝わる百徳着物を紹介します。百徳着物は、母親がわが子の無事を祈って、縁者からもらった布を縫い合わせて作った子ども用の着物です。百徳キルトの会15名の作品、百徳着物50枚、パッチワークの小物などを展示します。

**コレクションや作品を展示してみませんか？**

マイミュージアムギャラリーは、岐阜県に在住、在勤またはゆかりのある個人及び団体（法人等）のコレクションや生涯学習の成果の発表の場です。特に、貴重なコレクション、子どもさんが楽しめるコレクションや作品を歓迎します。

展示の条件などは、当館マイミュージアムギャラリーで配布のチラシの裏面に詳細が掲載してあります。その他、出展に関するお問い合わせは、下記までお気軽にお尋ねください。



**申込み受付中!**